

C 21

福岡縣立
尋常師範
學校

文部
讀本

小學習字帖

高等科用

五

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 3 2 9 2 1 a

福岡教育大学蔵書

山 口 縣 立
教 育 部

教授法	款	書	道	項
	目			次
全	冊ノ内第			冊
分番	類號	第		號

372.82

T1
72
F7

MADE IN JAPAN

福地源一郎著

正價金八錢

文部
讀本
小學習字帖

高等科用

五

海石村田浩藏書

高五

今回の内國勸業博覽會(出品)
新古貨幣模形類聚、最早御覽

相成儀や新聞紙の報ずる所によ
れ^ば金貨を天正慶長の大判より

安政の小判ふ及び銀貨を重板挺
銀より彼の元禄寶永の悪銀正徳

享保の新銀と申をとり又近來の
金分判を朱判と云り銅貨は上古の

和同開珎と初まり近世の琉球仙臺
等封建時代の私鑄錢に至るまで

悉皆取揃何きも巧妙のそれふ
るよー相見えは取分け幾箇人の

目を注ぎ候徳川幕府貯蔵の黄
金は銅すて此の臺所の澤菴石

程も有之ふと申候未だ所出向相
成らば候りて所同行一見致し度

奉存候早々

二月廿五日

右宰純一

國初善政様

若江戸靈巖を以て米問屋諸崎庄

靈六

右集門乃雇人中吉が主家此零落を
歎き古の隆盛なりしを様よ回復

せーめんとてふつ里遠物佐敷
帰る音観音に系詣て堂の柱

ふ貼附クートふ「安ふ出ずばま
たとい穢さーふぶそめ乃いのち

ふりける佳夜の中よと此歌を
初法沙の歌よ「身を離てもまゝ紙の

づーと思ひまゝやゑれり々雪佳夜
の中よとあるを思ふ雪のせーは

ならんの中吉園より歌人より
ねどそ歌乃調を夢下ふ枕をたれ

ども其志の旌はなるを天を凌
ぐんとまゐれ家あり然も忠家

一途ふ思ひ詰めぬ心魂哀とい
まんねろろねろろ——佐ねをサヤ

と清むる——サヨとつふをほの
ろろな祭

所秘藏し品々拜見信ふ中にも

正宗乃口道禪の鞍明珍の塊信

家の銘祐乗の山柘又東山時代蔭
繪の三箱可翁乃觀音如拙の山水

明兆の羅漢雪舟は文殊光信乃孫
樂の園等稀代の名品と目を見驚の

し又茶非茶の實書并珠光が
其子れ武の自筆とも面白くお見

は古文書の中徳政の常時の實
借説文に通の如き文體も古雅ふ

て考古の材料此より見もれと被
なぬ斯る文書は何卒散逸せざる

損兵をも以保存主成及以厚礼
此儀奉申上之謹言

三月七日

斯波家直

赤松滿義様

四月某日例ニヨリテ品川灣ノ潮
大ニ退クヲ以テ我校長某先生ハ

予等男女生徒數十人ヲ率ヰテ
潮干ノ遊ヲナス一行ノ装束ヲ見

レバ或ハ木エニ擬スルモアリ水
夫ニ倣フモアリ商人學者官吏旅

客等サマザマナリ進テ臺場脇ニ
到リ遙ニ中川尻ヲ望メバ數里ノ

間ニ帶ノ潮流アリテ自カラ運
河ノ形ヲナス助教某氏ハ短艇ヲ

装シテ此潮流中ニ入ルニ忽チ
櫓柄ノ操ヲ誤リ水中ニ落ツ予等

驚キテ之ヲ扶ケ揚ゲタルニ氏ハ
笑テ曰ク彼ノガ―ふゐるぞハ初メ

水夫トナリテ水ニ溺ル、フ前後
十四回ニ及ビレガ遂ニ志ヲ立テ、

米國ノ大統領トナリシト聞ク予
ハ今水ニ墮ツルヲ纔ニ一回彼ニ

對シテ猶十三回ヲ輸クル者ナリト
予等之ヲ聽キテ皆大ニ笑フ斯

クテ拾撈半日ニシテ獲タル所ノ
蛤蜊數斛ニ盈チタレバ一行相擔ヒ

テ家ニ歸リヌ

是利氏の中世より徳川氏の初世

至る迄の諸家興亡の概略を承知
たされたり。市岡合ふ有左記

懐の儘なり。そを

足利氏滅亡の初、應仁乃亂とて

細川山名が京都より合戦あり
此より將軍の威權を地より墜ち花

乃都も我關の術とより持豐勝元
相尋で病死の後も其黨無き諸國

とね争ひ終ふ武人割據の世と
相成り其後ハ出羽ハ最上陸奥

伊達常陸ハ佐竹安房より里見相
摸ハ北條甲斐ハ武田駿河ハ今川

三河小徳川、尾張小織田、美濃小齋
藤伊勢、北畠、近江小淺井、越後小

上杉、越前朝倉、備前小浮田、出雲
小尾子、周防小大内、阿波小三好、土佐小

長曾我部此後小友肥前龍造
寺日向伊東薩摩に島津の諸家

ありて争乱止む時もあるべし
龍造寺の嶋津に討たれ大田の陶

亡ぼされ毛利を又陶を討て太田
の故地を収め君で庄子とも減ぬ

高篠北畠、浅井、新倉、今川、武田乃
教氏を前後織田氏に滅せしむ之

利氏の天下將ふ織田氏は歸せん
とさるふ當りて後田氏を其臣明

智に弑せられて豊臣氏あり其逆
を撃ち遂ふ海内は孫令りて北條

氏も此時ふとびぬ期て皇臣氏を
二世りて滅む徳川氏を覇府を

江戸開も爾後幾と三百年海
を平を謳歌するにむすやい

經濟ノ道極テ廣シ需用供給ノ理
一朝ニシテ盡ス可カラズ世上ニテ

贅澤品ト稱スルモノモ細カニ之
ヲ探究スル時ハ決シテ世ニ用ナキ

モノニアラズ人間ノ居所ハ起テ半
疊寐テ一疊ナレバ大厦高樓ハ無

用ノモノナリトシテ人々皆矮小ノ
茅屋ニミ住マバ大工左官ノ諸

職人ハ仕事無クナリテ困ル可シ
人間ノ衣服ハ寒暑ヲ凌ガバ足ラ

ン紗綾縮緬ハ必用ノモノニアラズ
トテ人々木綿ノ著物ノミ著バ蠶

婦織工ハ職業ヲ失ヒテ其日ノ食
料ニモ窮スベシ之ヲ要スルニ萬事

萬物皆繁榮シテ人々適當ノ地位
ヲ得ルヲ經濟ノ極意ト云フベキナリ

文部省高等学級中巻之五第三十一
課之素の性より實中此最も其素

ふるまひも亦元素なりとあり
右も何より其元素なり何ひ度

かこ

みりち

山口

小早川

重石

あつてはち炭まれば形を度
いたる物といふ人にもほ

ふが家の炭取れ炭まれば
て炭見せしめはけり

水神等も容易に化れずい
ども唯ぬけせんとも乃人君の

智慧少くは衆を惑はしむる程の
大執といへる能く其が爲の僅

苗針の匠やどなる小行ふても七
八条の價を有し指環襟飾の苗

なごふ用ひて此方ふねきいた
いさやちやとて老練金の次第ふ

此は山崎の法一翁までには下流
いりし

印

小早川好

居士

詠史

賴襄

鞭聲肅々夜過河曉見千兵擁

高五
世九

大牙遺恨十年磨一劍流星光
唐逸長蛇

海石村田浩藏書



版權所有

明治廿四年十二月廿四日出版
明治廿四年十二月廿七日登錄
明治廿五年三月廿四日訂正再版
文部省檢定濟

著者 東京府平民 福地源一郎
書者 大阪府平民 村田浩藏
發行所 東京府平民 西田傳助
印刷者 東京府平民 西田傳助

印刷 繁本良之助
製本 廣岡幸助
發賣 廣岡幸助
大販賣所 大泉圖書會社
同 支社
大阪東區難波橋町七十三番屋敷

